

幼児教育研修（施設長・危機管理）

受講者数 121 名

日時 令和4年7月25日（月）オンライン研修

講師 社会福祉法人 土の根会 理事長 新保 庄三 氏

【内 容】

過去に就学前施設で起きた事故の事例を基に、その原因や対応策について学びを深めます。また足立区危機管理安全保育マニュアルの改訂に伴い、その具体的な活用方法を知り、理解を深めます。

【受講者の感想】*** 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

- ・危機管理は園長だけが理解していても駄目で、全職員が理解していることが望ましいと学んだ。普段の保育活動、職員会議などの場を用いて職員全体で命の大切さを勉強したい。
- ・様々な事例を基に何故事故が起こるのかを今まで以上に深く考えることの重要性を感じた。足立区の危機管理安全保育マニュアルはとても読みやすいので、もう一度子どもの命を守るという点からも園内研修で確認していきたい。
- ・保育士不足や能力の偏り等をひしひしと感じ、子どもの命を守れているか日々不安であった。しかし保育は日々行なわれていくため、意識改革と共通認識、確認を忘れず落ち着いて行動していこうと思う。
- ・園長の立場から見てヒヤリとする場面で、ピンとこない保育者がいた時には、何が、なぜ、危険なのか一緒に考える場面を作っていく。また職員から意見が出たものについてはすぐに改善策を講じる。
- ・問題が起きた時、責任の追及をするような言い方や何となくやむやで終わってしまう時があるが、意識を変え「命を預かっている」という危機意識をもって振り返り、きちんと話し合っていきたい。
- ・相手に自分の考えや気持ちを伝える時のポイントとして、「伝えた」だけでなく、「伝わった」かどうか重要であると学んだ。きちんと伝わったかは職員一人一人の個人差がある。全員同じ伝え方はせず、人によって伝え方を考え、変えていかなければならないと理解した。
- ・散歩中の置き去りの事例では、保育士としてやりがちな職員が全員泣いている子どもに集まってしまうことを避ける、と具体的に対処策を学ぶことができた。園外活動中の役割をしっかりと決め、安全管理への意識を高められるよう職員に伝えていきたい。
- ・「園は子どもの生存を確認するところ」「園は家庭より安全な場所でなければならない」という言葉が強く心に刺さった。職員にも伝え、今一度生命を預かる重みを受け止めていきたい。
- ・様々な訓練があるが、大人だけで訓練することの大切さを学んだ。訓練は子どもと一緒にやるという固定観念が強いが、今必要な行動は何かを考えられるような、シミュレーションをして動く訓練を行っていききたい。